

令和7年10月14日

岩倉市長 久保田桂朗様

岩倉市行政評価委員会
委員長 千頭 聡

岩倉市行政改革行動計画に基づく令和6年度評価結果報告について
(提出)

表題のことについて、別紙のとおり評価結果をまとめたので提出します。

I はじめに

岩倉市行政評価委員会において、岩倉市行政改革行動計画に基づく令和6年度の評価について、令和7年7月17日、8月7日の2日間にわたり審議を行った。その評価を次のとおり取りまとめたので報告する。

II 総括

岩倉市行政改革行動計画は、第5次岩倉市総合計画について中間見直しを行う令和7年度を目標年度として計画が策定されており、令和6年度の実績について市から自己評価等が示され、本委員会において、この評価等により行財政改革の取組の進捗について審議した。その結果は、下表のとおりである。

評価区分	R 6 項目数 (割合)	R 5 項目数 (割合)
A：取組項目がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる。	3 項目 (15.8%)	5 項目 (26.3%)
B：取組項目がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる。	8 項目 (42.1%)	6 項目 (31.6%)
C：順調とまでは言えず、実施内容に基づく取組に改善・努力が必要	7 項目 (36.8%)	5 項目 (26.3%)
D：取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要	1 項目 (5.3%)	3 項目 (15.8%)
E：取組ができておらず、実施内容自体の見直しの検討も必要	0 項目 (0.0%)	0 項目 (0.0%)
計	19項目 (100.0%)	19項目 (100.0%)

※小数点第2位を四捨五入。

これらの評価は、本委員会において市の自己評価、担当課の説明に基づき実施したものである。本委員会の評価は、おおむね市の評価と一致したものであった。評価結果については、成果指標や効果額の設定が高い目標と思われる取組項目があり、成果指標が令和5年度と比べて下回ったり、進捗が遅延している取組もあるなど、令和5年度の実績と比較して、A評価が2項目減少しており、令和7年度の目標達成に向けて、引き続き、各種取組の改善や努力を期待する。

全体としては、本委員会の意見を踏まえ、改革・改善を進め、おおむね着実に取り組まれており、行財政改革を進めるための基本となるPlan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のPDCAサイクルを意識して業務を遂行していると評価できる。

なお、各取組項目については、令和6年度岩倉市行政改革行動計画実績評価シートに本委員会の評価及び意見を付したため、各担当課においては、記載した内容を意識しながら、引き続き行財政改革に取り組んでほしい。